

ピアホームだより

2026. 7. 1

事例検討会

先日、当法人で定期的に行っている事例検討会が行われました。顧問医の先生や各理事の他、関係者の参加によって毎年継続して行われている実践的な学びの場です。今回も多く意見交換がなされ、大変有意義な時間でした。

今回、利用者同士、利用者と支援者との関係構築が上手くいかない事例について、発表しました。

私たちは日々のミーティングで互いに顔を合わせ交流する時間を重ねることで、理解し合うことを大切にしています。

現代では日々の暮らしの中で近隣との関係は段々と希薄になっているように思います。他者との関わりが少ないと、いざ関わらなくてはならない事態になったとき、とても煩わしいと思う人も多いでしょう。そうになると、何かが起こったとき、想像力が狭められていて他責思考になりがちです。普段から何かと一緒に経

験して、お互いを知る機会がなければ視野は広がらないだろうと思います。

しかしながら、何かと一緒に経験することでお互いを知ろうということは、実際にはそう簡単ではありません。これまでの人間関係で傷ついてきた人やコミュニケーションが苦手という人もいます。無理強いをすれば、さらに調子を崩すことも想像できますし、苦情やトラブルにつながることもあります。利用者の障害特性などもあり、利用者同士が理解し合うことはとても難しいと感じることもしばしばです。もちろん、それを理由に支援困難であると簡単にあきらめてしまって良いわけではありません。

今回は顧問医の先生から、支援者の技術的な面として、寄り添うことと向き合うことは区別して考えること、寄り添い共感を示しながら、ある段階では支援者としての考えをしっかりと伝えることの必要性を助言いただきました。さらには、支援者が答えを導かなくとも対話の関係を続けることが大切というお話しには、改めて支援者としての姿勢を振り返ることができました。

万策尽きたところから

今回の事例検討会を通して、改めて私たちの仕事の理想と現実を考えました。一つの事業所でできることには限界があります。抱えることは必ずしも適切で

はないし、他に適した場所があるかもしれないと柔軟に考えることも大切なことです。

一方で、私は個人的には、ソーシャルワークは万策尽きたところから始まるといった感覚を持っています。「どうしていいかわからない、困ったぞ」という状況であるからこそ、利用者は支援者の前に現れる。支援者も試行錯誤の中にあり悩み続けるものである。この感覚は忘れないでいたいと思います。

自分や他者の価値観を知ろう

ピアホームⅡで大人気の『カラバリュカード』は、52枚の価値観カードから自分が大切にしている価値観を選び、ゲームを通じて自分と他者をより深く知るものです。なぜそのカードを捨てたのか、最後まで大切にしていた5つの価値観は？と、新たな自分の発見や仲間の意外な一面に、メンバーさん同士の会話も弾みます。その中に否定はなく、「それ自分もわかります。」とか「〇〇さんそうだね〜。」と、共感や尊重の声が溢れ、とても素敵だなあ・・・と感じています。



7月の予定 7、13、21、27日:ピアⅠ・Ⅱ夕食会